

加三方

～地元を見守ってきた祭祀遺跡（たいち墓）～

目次

- おすすめポイント
- 説明
- 現地写真
- 「鳥の目」で
- アクセス

資料番号

K9

初版：2025.11.04



1. おすすめポイント

★磐座の前に展開する平面的な巨石群、お祭り広場のよう

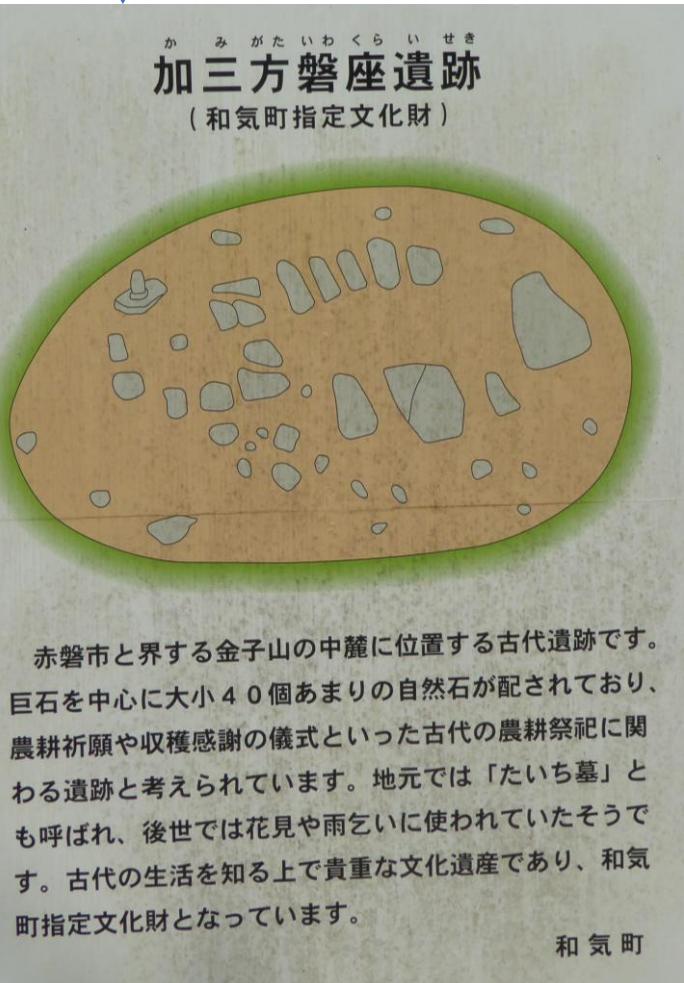
見晴らしも良く、花見にも使われているようです
ピクニックに最適では？

2. 説明



2-1

空撮写真 直上より



2-2

現地説明板

下記 参考文献1「八木敏乗, 岡山の祭祀遺跡(岡山文庫145)」. 日本文教出版, 1990, p 72」より枠内引用させて頂きます。

加三方

和気郡佐伯町

和気郡佐伯町加三方の南方、金子山（三〇〇メートル）の中腹丘頂（約二二〇メートル）に遺跡は展開している。

この地は古くから、太一墓（中国古代の最高神天帝を祀る所）として伝承されており、学術的調査は今だ行われていない。この遺跡の全体会像などからして、古墳（石室墓）と推察され、域内に小型横穴式墓一基を伴い周辺にも同類を散見する。

最頂部に神石（磐座）を据え、東北面して大小、數十個の石を配し、それぞれ環状列石、併列組み石、組み配石等の多様な石の造形を見る。遺跡の規模は大きく、巨大な石を数多く列・配石している点に特徴を示し、頂部より北面して、前左方約二〇メートルから、頂部の神石へ向かって、傾斜度約一五度のほぼ同一面上を長径約二メートル、幅約一メートル、厚さ不詳（約一メートル）の巨

石を八個、長い方を東西に並列に据え付ける状態は、巨大横穴式石室の天井石の露出を思わせる観があり、また頂部神石と思われる巨石のすぐ東には、中央に一個の石を配し、この石を中心として半径一・五メートルの環状列石を構成するなど、多様な造形の組・配・列石の容相を見せ、県内はもとより全国的にも、稀例の遺跡として注目すべきである。

この遺跡の多様な造形式の摸様からしてこの遺跡が、当初から現遺構の完工を見たものではなく、築造が数次にわたって増補されて、現在の形態を構成したものと考えられる。

3. 現地写真

2020.4.16



3-1



3-2

山側を背に磐座を見る



3-3

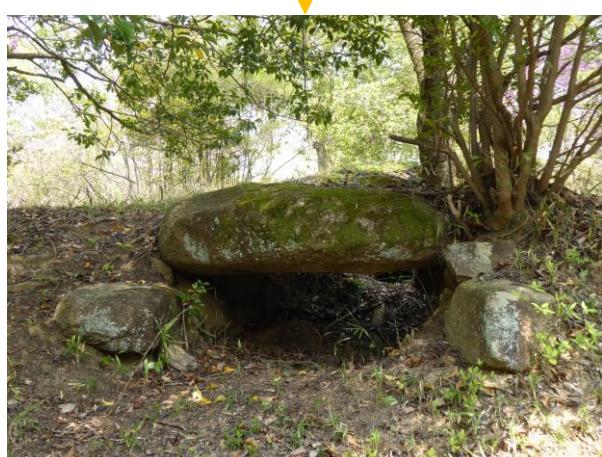
磐座山古墳

磐座から南側に
やや下った位置
説明板の近く



3-4

位置関係



3-5

横穴式石室

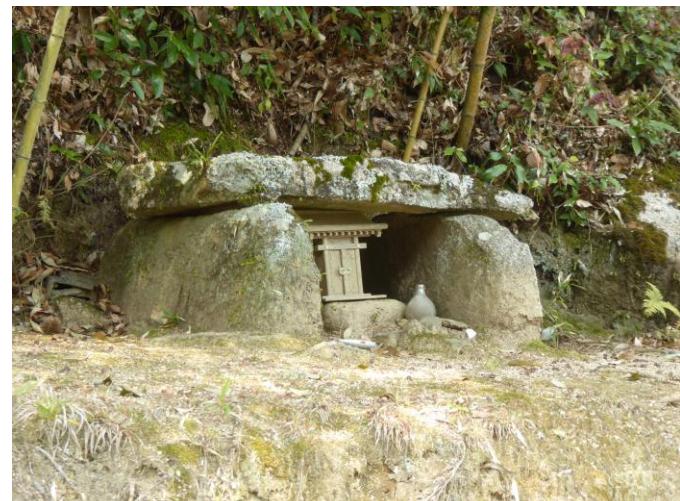


3-6

地元では石を用いた祭祀が今も息づいている



3-7 古墳の石室を利用？



3-8



3-9

4. 「鳥の目」で

2020.4.16



4-1

北を望む



4-2



4-3

斜め上から



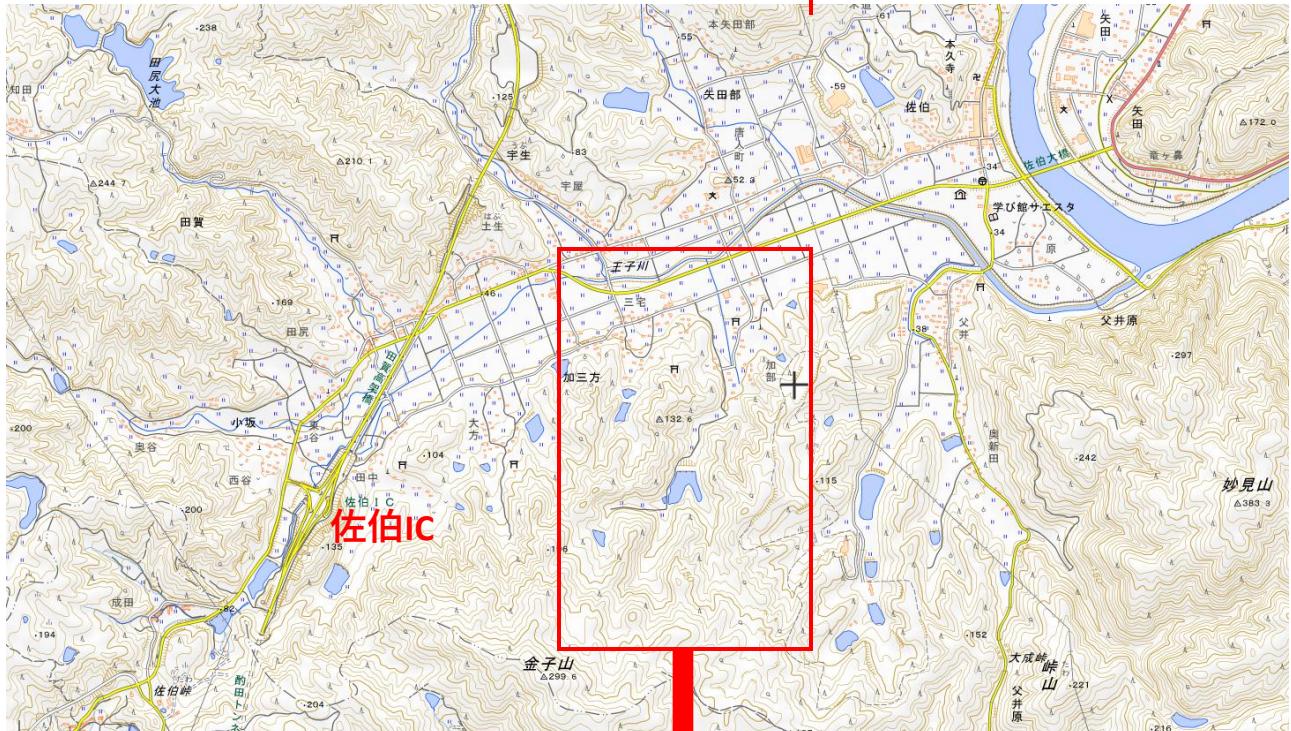
4-4

直上から

5. アクセス

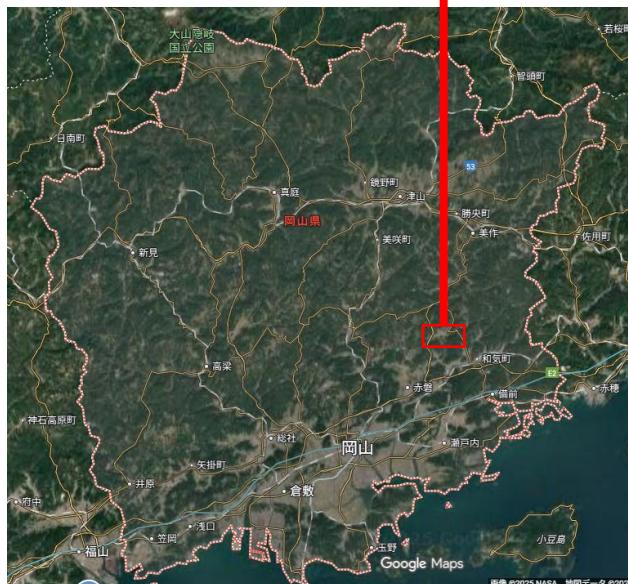
N
↑

地理院地図に赤で追記

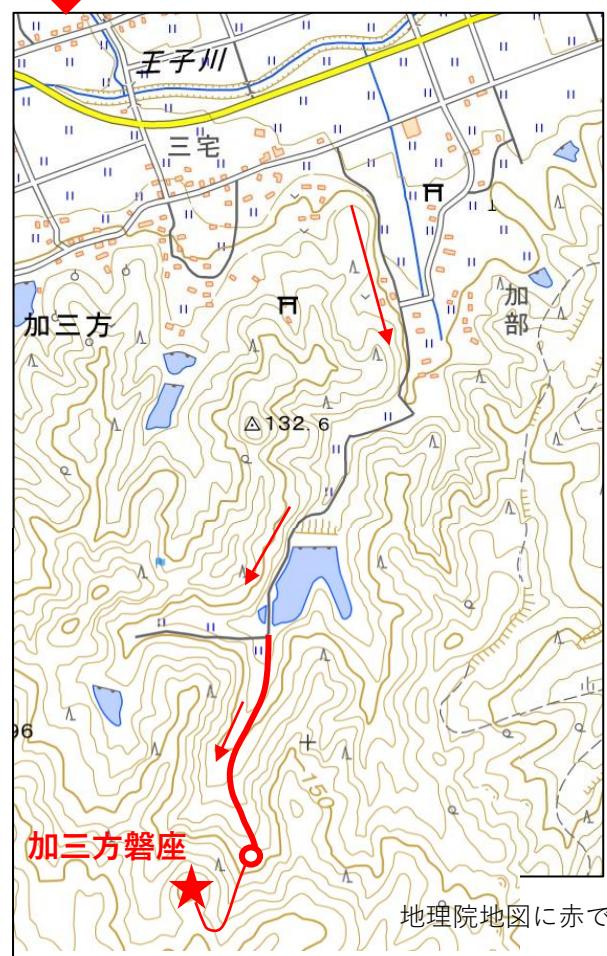


岡山県和気郡加三方

5-1



5-3



5-2

地理院地図に赤で追記

参考文献

- 1) 八木 便乗. 岡山の祭祀遺跡（岡山文庫145）. 日本文教出版,
1990, 173p.